

136 糸満マギー（イ）

（あそこは人並み）

向こうの、夜、女の人に好かれてからね、みんながあれさしたいけど、けっこの体の大きいから、あれ、下のもんも大きいんじゃないかなと、女の人怖がつてね。あれさしたいけど、下も大きいんじゃないかなあということ、触らせる人いなかったって。

そしたらね、あの、話を聞いて、

「体の大きい男は下のほうも大きいから、お前のはさせる人いない」と友達に言われたんでしょね。わざと裸でね、女の人が市場に行くところを見計らって、裸して歩いてね、これはそんなに大きくないということを見せたら、その晩からね、女の人がたくさん集まってきた。あれしたらね、そしたら今度は、向こうの部落の人間がね、いわゆる焼きもち焼いて、集団で来てからに、

「もうこの、やつつけてやろう」と。これ一人のために女取られてはたまるか、ということ、村の者が。

そういうたらね、マールン（馬艦船）がありますよね。帆柱を、でっかい帆柱を、たくさん来た時に、「来るなら来い」。あの帆柱引き抜いて構えたら、それからびっくりしてもう、とんで逃げ帰ったという話ですね。それから手出しも誰もすること出来なかった。

類話

字阿波根 平田徳太

字糸満 上原皓吉